

**病害虫防除技術情報** NO. 15-2

岩手県病害虫防除所

**イヌホタルイ・シズイは、アカスジカスミカメの産卵場所となる**

アカスジカスミカメは、従来、イネ科植物以外の植物に産卵することは確認されていない。今回、カヤツリグサ科の水田雑草であるイヌホタルイ及びシズイに、アカスジカスミカメが産卵すること、及び幼虫が孵化してくることを確認した。このことから、イヌホタルイ及びシズイは、アカスジカスミカメの産卵場所となる。

## 1 イヌホタルイ・シズイ多発圃場におけるカメムシ類のすくい取り調査結果

カヤツリグサ科の水田雑草であるイヌホタルイ・シズイが多発生している水田で、カスミカメムシ類の幼虫が多数すくい取られる圃場が見られた(表1)。

表1 イヌホタルイ・シズイ多発圃場におけるのカスミカメムシ類のすくい取り調査結果(20回振)

	アカスジ <sup>※</sup>	アカヒゲ <sup>※</sup>	カスミカメムシ類幼虫	斑点米混入率(程度)	備考
イヌホタルイ多発圃場	12	0	10	1.2% (甚)	東和町(すくい取り:2002/8/26, 薬剤防除:8/17) 畦畔にイタリアンライグラスあり
イヌホタルイ多発圃場	9	0	6	0.8% (甚)	石鳥谷町(すくい取り:2003/9/3, 薬剤防除:8/17) 畦畔にイネ科雑草あり
シズイ多発圃場	56	2	156	0.1% (中)	胆沢町(すくい取り:2003/8/21, 薬剤防除:8/23) 畦畔にイタリアンライグラスあり

## 2 イヌホタルイ・シズイに対するカスミカメムシ類の産卵状況調査

アカスジカスミカメ(以下アカスジ)が多数すくい取られる圃場から採取してきたイヌホタルイ・シズイの小穂に対する産卵状況を実体顕微鏡を用いて調査した。その結果、イヌホタルイの小穂300個中4個にアカスジのものと思われる卵が確認され、9個の小穂には既に孵化したと考えられる卵殻が確認された(表2)。

また、シズイの小穂からは卵は確認できなかったものの、小穂107個中12個に卵殻が確認された(表3)。



イヌホタルイに産卵されたカスミカメムシ類の卵

表2 イヌホタルイ小穂へのカスミカメムシ類の産卵状況  
(2002.9.19採取、東和町)

調査小穂数	卵あり	卵殻あり
300	4	9

表3 シズイ小穂へのカスミカメムシ類の産卵状況  
(2003.9.4採取、胆沢町)

調査小穂数	卵あり	卵殻あり
107	0	12

### 3 イヌホタルイ・シズイからのカスミカメムシ類幼虫孵化状況調査

アカスジが多数すくい取られる圃場から採取してきたイヌホタルイ・シズイの小穂を室温に放置し、幼虫が孵化してくるかどうか調査した。その結果、カスミカメムシ類幼虫の孵化が確認された。また、孵化した幼虫をムギの芽出し苗を用いて飼育し、種を確認したところ、羽化した成虫はすべてアカスジであった（表4、表5）。

表4 イヌホタルイ小穂からのカスミカメムシ類の孵化状況  
(2003.8.12採取、東和町)

調査茎数	孵化数
200	60※

※種はアカスジ

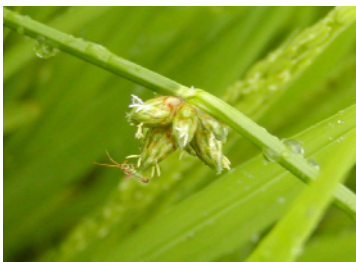
表5 シズイ小穂からのカスミカメムシ類の孵化状況  
(2003.8.12採取、胆沢町)

調査茎数	孵化数
84	14※

※種はアカスジ

アカスジカスミカメとは・・・

成虫の体長は、4.5～6.0mmの小型のカメムシで岩手県では斑点米カメムシの主要な種。これまでイネ科植物の穎花内に産卵するとされてきたが、イネ科植物以外の穎花内にも産卵されることが明らかとなった。卵で越冬し、成虫は1年に3回発生する。主にイネ科植物を餌としており特にイタリアンライグを好む。岩手県では、水稻を加害するのは主に2～3回目に発生する成虫である。成虫は移動性があり、稲が出穂すると生息地から水田に飛来し、加害する。



イヌホタルイ上の成虫



シズイ上の幼虫

カヤツリグサ科の水田雑草であるイヌホタルイ及びシズイが、アカスジカスミカメの産卵場所となることが確認された。しかし、本田は越冬世代成虫の発生前に耕起されるため、イヌホタルイやシズイがアカスジカスミカメの越冬源と成り得る可能性は低い。このことから、水田周辺の発生源から侵入した成虫がイヌホタルイやシズイに産卵し、それが孵化することにより、水稻への加害が増加する可能性がある。イヌホタルイやシズイが発生している水田では、周辺の発生源対策に十分注意するとともに、イヌホタルイ・シズイを除草するよう努める。